

上皮組織関門 じょうひそしきかんもん

動物の体外表面、あるいは体腔や諸器官の内腔など体内の腔所を覆う組織のこと。上皮（例、腸の粘膜上皮）、中胚葉性上皮（例、腹膜の上皮）に分ける。また、主としてその機能により、被蓋上皮（保護上皮ともいう）、吸収上皮、線上皮（分泌上皮ともいう）、感覚上皮、生殖上皮などを区別する。皮膚表皮の基底層や腸の粘膜上皮等の幹細胞は、放射線により障害を受けやすい。一方、高度に分化し、分裂能を失った機能細胞（例、腸の上皮細胞）は放射線感受性が低い。そのため、こうした組織の放射線障害は、主に幹細胞の増殖抑制による機能細胞数の不足により起こる。

<登録年月>

1998年01月
